


2018 年度3月 神戸森林植物園 定例観察会報告

日 時	2018年3月10日(土) 9:30~13:00		記録者: 熊谷信哉
探 鳥 地	神戸市北区 神戸森林植物園 展示館前~萩の小径~薬樹園~展示館前~長谷池		
参加人数	在校生 13名	顧問 1名 相談役 1名	総計 15名 天候: 晴れ
観 察 概 要	 <p style="text-align: center;">探鳥の熱意が寒さに勝った=多目的広場</p>		
	<p>真冬並みの寒気の中で始まった3月観察会。「この分では鳥は出て来ないのでは」と不安がよぎる。ところが案に相違して渡り間近のジョウビタキが最後の姿を披露してくれるわ、日本で一番小さい鳥・クイタダキまでが松の枝の周りでチョロチョロ。冬の装いのままの、やや太めのアオジも目を楽しませてくれた。春の訪れの前の大収穫で、満足の一日だった。</p>		
	<p>【定例観測会で観察できた鳥】 アオゲラ、アオジ、アトリ、エナガ、カシラダカ、カワラヒワ、クイタダキ、キジバト、コゲラ、シジュウカラ、ジョウビタキ、シロハラ、ツグミ、トビ、ハシブトガラス、ハヤブサ、ヒヨドリ、ホオジロ、ミヤマホオジロ、メジロ、モズ、ヤマガラ、ルリビタキの23種</p> <p>【声を聞いた鳥】 (探鳥確認メモ 秋冬バージョンより) ウグイス、シメ、ハシボソガラスの3種</p>		



《野鳥小ばなし》 **だるまさんが転んだ** 野鳥の歩き「なくて七癖」

3月の観測会の下見の記事に「ツグミの走り」の写真が載りました。あまり目にする事のない瞬間を切り取り、特に女性会員から「新鮮」「可愛い」の声が寄せられました。撮影した西山博昭さんによりますと「オスが自分のテリトリーに侵入してきた他のオスを追っ払っているところ」だそうです。ツグミが単体で歩いている状態は、よく「だるまさんが転んだ」と表現されていますね。野鳥が地上を歩く姿は「なくて七癖」。

『大人のためのバードウォッチング入門』(東洋館出版社)から拾ってみました。それにしても進化の過程で、なぜ行動がこんなに違ってきたのか不思議です。

- イソシギ**→おしりをよく振りながら元気に歩く。 **キジ**→堂々と歩く。 **コチドリ**→千鳥足の語源となった歩き方。
- スズメ** →うさぎ跳びのように両足をそろえて跳ね歩く。 **タゲリ** →数歩小走りに進んでは立ち止まる。
- ツグミ** →芝生の上などを小走りに胸を張って走る。 **ハト、バン** →首を前後に動かしながら進む。
- ハクセキレイ**→歩く合間に上下に尾を振りながらせわしく歩く **ムクドリ**→人と同様足を交互に動かして進む。

“野鳥が歩く姿で、ここにはない「なくて七癖」に気づかれましたら、ぜひお知らせを！”